



協定締結の日本非常食推進機構の古谷賢治代表理事(右)と岩田昭人市長(15日、市長室で)

災害時の非常食

白い小箱運動 尾鷲市も協定結ぶ

尾鷲市は15日、「白賢治代表理事が協定書い小箱」運動に取り組んでいて、一般財団法人日本非常食推進機構(四日市市)と「災害救助に必要な物資の調達と普及啓発に関する協定」を締結。市長室で岩田昭人市長と古谷

食などが入った白い小箱を家庭に無料で配布している。

白い小箱は災害物資の個人備蓄推進、地域が被災した場合には支援物資として提供。保管期間(3年)を過ぎたものは自治体や賛同企業が回収して海外の飢餓地域へ届ける食糧支援に使われる決ま

りになっている。小箱の作製は障害者就労事業所に委託しており、尾鷲市内では2施設が作製を請け負っている。

白い小箱にはレトルト食品や飲料水などが入っており、一般には1500円で販売。尾鷲市は同機構から無償で提供を受けて市民に配布。他地域での災害時に市が回収して提供に協力するという協

定。古谷代表理事が協定書に調印。古谷代表理事は「東日本大震災後、具体的に何をやって良いのかと戸惑ったが誰かが助け合える自助・共助・公助の仕組みが必要と始めたのが白い小箱運動。公助の部分で尾鷲市が手助けをしてくれて感謝している。今は県内だけの運動だが、全国での取り組みに広げたい」と話し、岩田市長は「災害時に備えた心強い協定で感謝している。自助の観点で災害物資の個人備蓄は重要でこれを機に尾鷲市でも啓発に努めたい」と述べた。

白い小箱は23日の避難所体験訓練で市民に300個が配布される。

市長室で岩田市長と古谷代表理事が協定書に調印。古谷代表理事は「東日本大震災後、具体的に何をやって良いのかと戸惑ったが誰かが助け合える自助・共助・公助の仕組みが必要と始めたのが白い小箱運動。公助の部分で尾鷲市が手助けをしてくれて感謝している。今は県内だけの運動だが、全国での取り組みに広げたい」と話し、岩田市長は「災害時に備えた心強い協定で感謝している。自助の観点で災害物資の個人備蓄は重要でこれを機に尾鷲市でも啓発に努めたい」と述べた。

る。来年以降も尾鷲市に配布される。

同機構は企業の協賛金で運営。県と県内15市町と協定を結んでおり尾鷲市は16番目。来秋までに全市町と締結する予定。